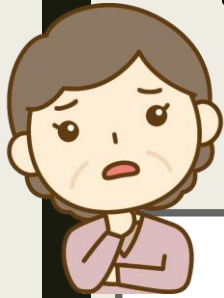


# 患者個々の状態と状況に合った終末期看護・退院支援に取り組みます

## —胃がん終末期における 退院支援— by 南5階病棟



### 患者紹介

A氏 70歳 女性  
元保険の外交員  
家のこともすべてこなす

#### 家族構成

- ・夫と二人暮らし
  - ・息子二人は別居
- ※キーパーソンは30代の孫  
孫とは電話やメールで連絡  
を取り合い頼りにしている

#### 疾患名

- ・悪性リンパ腫（完解期）
- ・進行胃がん横行結腸浸潤
- ・腹膜播種

### 経過〈退院から5日後〉

- ・下痢と脱水による腎障害、  
低K血症、貧血のため入院
- ・嘔気嘔吐、食事摂取量安  
定せず点滴加療継続
- ・末梢ルート確保困難とな  
りCVカテーテル留置
- ・倦怠感や労作時の息切  
れを主訴に離床すすまず

発熱・下痢・嘔気嘔吐の症状  
労作時の息切れ、倦怠感  
思うように動けず落ち込む



帰りたいけど不安もある  
『治らんの?』

『排便だけでもトイレにいけたら帰れる』  
『自宅に帰りたい、自由に動きたい』  
『いつになったら帰れるの』

『こんなところでおったらノイローゼになる、  
指切ってやろうと思う』  
『ここから飛び降りようと思う』  
『こんなだったら死んだほうがまし!』

# 退院へ向けての症状コントロール

## 医師へ相談



嘔気  
嘔吐

注射薬から予  
防的な内服と  
してメトクロプ  
ラミド錠3回/  
日へ変更

入院中は注射  
も併用  
本人へ副作  
用も説明

発熱

解熱剤の  
定期内服を  
相談

腫瘍熱の  
可能性あり  
ナイキサン  
定期内服  
開始

下痢

ステント留置  
や病状上固形  
便は出ないが、  
排便回数が  
減れば、トイレ  
歩行の負担  
が減る

ロペミン頓用  
の内服を開始

## 結果

嘔気  
嘔吐

一時的に症  
状は軽快

病状の進行  
により食べて  
嘔吐するの  
繰り返し

食事摂取量  
に起因するこ  
とを説明  
強い制限は  
せず

発熱

スパイク熱は  
みられなく  
なった

下痢

本人が満足  
できる程度  
に回数は  
減った

腹膜播種や  
それに伴う  
新たな場所  
での大腸狭  
窄などの可  
能性



# 退院へ向けて

医師・薬剤師  
症状コントロール

家族への受け入れ、  
看取りについて思い確認

MSW  
自宅退院及び  
転院調整について相談

理学療法士  
目標設定・情報共有

看護師  
目標は退院  
患者の想いを繋ぐ



# まとめ

●終末期の苦痛緩和を行うことは、患者の混乱を防ぎ、持っている力を引き出し、療養場所選定の意思決定支援へつながる

●療養の場に対する患者、家族、医療者の認識のズレを修正し、方向性を一致させるには、早期からの退院調整や話し合いを重ね、

患者にとっての最善は何か

を考え慎重に選択する必要がある